

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400023	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成17年5月1日 平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人豊笑会			
事業所名	ライフハウス 日ノ出			
所在地	(231-0066) 神奈川県横浜市中区日ノ出町2-132-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京急線日ノ出駅から徒歩4分の神社や学校・公園に近い住宅地に有り4階建て屋の3・4階に位置している 1・2階には小規模多機能型居宅介護と通所介護事業所が有り、日常的に交流する機会が多い 法人が特別養護老人ホームを運営しており、家族には安心感を与えている 地域のボランティアが定期的開催する習字・大正琴・朗読等が利用者に好評である 初詣は隣の神社に参り、桜の時期は大岡川へ散歩に行ったり、フロアから見える隣の神社の桜を満喫している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年1月20日	評価機関 評価決定日	平成22年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点> ・法人傘下に特別養護老人ホーム(2か所)、グループホーム(3か所)があり、施設の利用、情報提供などを通じて家族に安心感を与えている。 ・「横浜市グループホーム連絡協議会」に加入して情報交換、交換研修を行い、職員の資質の向上に努めている。 ・当事業所があるビルの1階に、同法人の小規模多機能施設、2階には通所介護施設があり、利用者に日常的に交流する機会を提供している。 ・利用者は、地域行事へに参加し町内会館の「ふれあいサロン」を利用している。また、ボランティアや中学生の体験学習や保育園児の訪問を毎年受け入れるなど、地域との交流を大切にしている。 ・運営推進会議に地域の代表に参加してもらい、地域住民の意見を参考にしてサービスの質の向上に努めている。
<事業所の工夫点> ・「課題の抽出分析シート」を作り、利用者の介護上の課題、要因・背景を明確にして介護計画に反映している。 ・毎月のケアカンファレンスに全職員が出席して、介護計画の実行結果を検討して課題の解決に取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ライフハウス日ノ出

事業所名	ライフハウス日ノ出
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階の入口・事務室に掲示してある理念を共有し、家族や地域との関係強化に努め、会議の時に話し合いをして、介護計画に反映している。	・理念のキーワードは「自由な日常生活、生活習慣尊重、安心・安全」である。 ・フロア会議、地域行事への参加を通じて理念の共有と実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し町内会主催の行事に参加している。 ボランティアを受け入れ、見学者へ積極的に開放し交流に努めている。 中学生の福祉体験学習を受け入れたり近くの保育園の園児達が来たりしている。	・町内会に加入しており、地域のふれあいサロン、お祭りに参加している。 ・知人の訪問があり電話でも連絡している。 ・地域とは、ボランティア（習字・大正琴）や中学生・保育園児を受け入れ、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散歩、隣の公園で挨拶を積極的にする等により交流し易い雰囲気作りをしている。交流の中で理解をして頂くのが精一杯で啓蒙活動には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ3ヶ月に1回程度開催し、意見・アドバイスをもらいサービスの向上に生かしている。	・メンバーに町内会長、民生委員、ケアプラザ所長、家族代表が参加して3か月毎に開催している。 ・高齢者の転倒事故などの防止に配慮するよう要望があり、日常のサービスに反映するよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の健康福祉課に介護度の高い利用者の支援内容等について相談・アドバイスを受けている。	・利用者の支援内容に関する相談・アドバイス・手続き、その他情報収集を通じて、区役所の職員と常時連携し、協力体制ができています。	

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の3・4階がグループホームであり、エレベーターに防止策がなく危険な為、各フロアの玄関はオートロックにしているが、フロア内の移動は自由である。身体拘束をしない様に会議で話し合い共通理念として各職員が自覚している。	・フロア内は居室を含めて施錠していない。 ・「身体拘束ゼロ樹立」の方針を掲示し、フロア会議で具体的な対応を話し合っている。職員採用時や法人の内部研修（年2回開催）で身体拘束禁止を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、全身を観察して傷・あざ等の有無を確認している。 傷・あざが認められた場合何故・いつなったのかを話し合って確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料配布はなされているが、実際には管理者が対応している。全職員が学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学やパンフレット請求時などに説明し、入居契約時にもきちんと説明を行い理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付様式が整備されており、意見・要望が寄せられた場合には、職員会議等で話し合い解決に向け努力している。 契約書に第三者の公的窓口を明記している。	・家族の来訪時や電話連絡の際に、希望・意見を聞きサービスに反映するように努めている。 ・玄関に苦情相談窓口の連絡先（窓口担当者、公的第三者委員）を掲示している。	

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議（フロア・リーダー）で意見や提案を話し合い、改善・実行している。サンライズ会議を月に1回実施しており、現状報告や意見を聞いてもらえる機会があり、サービス向上に反映させている。	・毎月のフロア会議、リーダー会議、法人の経営推進会議を、職員の意見や提案を聞く機会としている。 ・衣類の乾燥機、床面の張り替え、風除けドアの増設などの提案があり、サービス向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新年会を法人主催で開催し、夏祭りは法人本部や法人内各施設の役職者が手伝うなど、各施設間と交流している。 ・介護職員処遇改善手当を付けてやりがい・向上心を持って様になっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー2級の取得支援制度を利用し、資格取得を奨励している。 研修・講習を受けられる様勤務変更したり、スキルアップの為の講習・研修の資料を配布・掲示をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡協議会に加入し、交換研修等を行っている。他ホームの良い点・悪い点を实地に体験して、自分のホームを反省し介護に活かすようにしている。講習・研修に行く際、時間外手当や交通費を付けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前にアセスメントを実施して、直接ご本人に面会し相互間の理解に努めている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・電話での問い合わせや、施設見学の段階から、相談しやすい雰囲気作りに努め、相談を受ける際にはご家族の意見・要望等をよく傾聴・受容し、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者の日常生活を理解し、本人にとってより良いサービス利用になるよう対応している。 ・対応が難しいケースの場合、介護技術や設備等説明した上で、他のサービス利用の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意思を尊重してのより良い関係を作る為、会話を多く持ち、時間を共有できる様にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へはこまめに報告・連絡をして、御利用者により良いサービス提供ができる様、話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に来設頂き、お茶を飲みながら、ゆっくり会話をして頂く又その時御家族には今、現在の様子を知らせている。日々の生活の中で思い出話をして馴染みの人や場所への想起を図っている。	・利用者の知人に訪問してもらい、また電話を取りついで入所以前からの交流を継続している。また、利用者が、馴染みの場所に出かけることもある。	

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良く一緒に生活できる様、声掛け・介助している。 リビングで皆一緒に活動（体操・ゲーム）をする様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も電話をしたり、時には訪問して様子を伺う事もある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取り、ご利用者の思いを尊重し、日常生活が送れる様に努力している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話や表情、仕草、声の調子を通じて利用者の思いや意向を把握している。 ・家族の意見を大切にし、内容によっては個人記録に記載して職員間で情報を共有し、ケアカンファレンスで検討している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント情報や会話の中での情報を把握し、その人らしさを見出す様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の様子を見守り、日々のチェックにより、一日の過ごし方をどうするのか？より良い介護をして行くにはどうしたら良いか？等話し合い、情報の共有をしている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議においてご利用者の状況について話し合い、その結果やご家族の意見を参考にしている	・医師の指示や家族の意見を参考に、毎月、ケアカンファレンスでケアのあり方を検討している。 ・「課題の摘出分析シート」で課題・背景を検討して、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートへ日々の変化を記入し、スタッフ間でも、その都度様子を申し送りして注意し共有している。 毎月の様子のまとめや事故報告を活用して介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子観察によりご本人の様子変化の把握や御家族の希望・要望により対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の様子を把握し、定期的な消防指導・訓練により安全確保を図っている。 2階デイサービスのイベントやボランティアの訪問時参加して交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の提携医療機関からの往診がある。毎週歯科検診も実施している。 又、本人希望の医療機関や体調に合わせての受診もある。	・2週間毎に内科医が、毎週歯科医が口腔検診・指導に往診している。 ・従来のかかりつけ医を継続する利用者があり、家族の都合がつかない場合は、依頼により通院を支援している。	

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ建物内のデイサービスの看護師に、日常の健康管理に関する相談に乗ってもらい、必要時には医療処置をお願いしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフは必要物品を届けた時に現在の様子を聞いたり、退院後も病状に応じて、病院関係者とは連絡を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に重度化についての対応や終末期についての思いを日々の交流の中で確認をしている。 終末期・重度化になることを想定しての対応を検討していきたい。	・重度化した場合については、常に家族の希望・医師の意見を確認しながら、対応をするように努めている。 ・これまでに、1人の方の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルは掲示してあり、対応した職員のはなしを聞き、日頃から持ち出し袋を用意している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。 ・災害用ビデオを見たりして災害に備えられるように意識している。	・昨年2月に消防署員の協力を得て、利用者が参加して避難訓練を行い、また、水消火器を使用した消火訓練を実施した。 ・9月はビデオテープを見て避難訓練のポイントを学んだ。	・非常食や水の備蓄、また、毛布などの防寒対策について、検討されることが期待されます。

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライドを傷つける様な言葉遣いせず、人生の先輩として尊敬した言葉掛けに努めている。	・家族の希望により、本人の気持ちの安定のため、入居前の家庭での呼びかけ方（愛称など）を踏襲することになっているが、プライドを傷つけないように職員同士、絶えず注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全て介助せず、ご本人の希望に添えられる様、ご本人とよく話し合い意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れは一応作成し各職員対応しているが、利用者のペースや希望に添って起床時間・食事時間を調節している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物は御利用者の意思で選んで着てもらっている。が、体調・天候により着衣の増減に関して職員が声掛け・介助する事がある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月全員で食事やおやつ作りをしている。ご自分で台所に立てる方には、野菜を切ってもらったり、下膳をしてもらい、また、食器拭きをしてもらう等各々の役割を無理のない範囲で実施している。誕生日にはご本人の要望を入れた献立を提供している。	・可能な利用者は、食事の都度自分の食器類の後片付けをしている。 ・料理人であった利用者が調理を最近まで手伝っていた。 ・誕生日や夏祭りなどでは、利用者の希望するメニューで職員、利用者が食材を調達して調理している。	

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量、水分摂取量を常に記入し、体調を見る様になっている。不足している時は摂取を促し、それでもまだ不足している時には、栄養補助食品を補う等をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診が有り、口腔内のチェックをしてもらっている。ご本人が口腔ケア後注意された項目に留意して職員が仕上げをしている。夜間義歯を預かり洗浄・消毒を実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により排泄時間の把握をし、トイレにて排泄できる様誘導・声掛けをしている	・日中は排泄チェック表などを分析して活かし、可能な限りリハビリパンツなどで過ごしてもらっている。成果として、リハビリパンツから普通布パンツへ改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・起床時の牛乳・朝食時にヨーグルトを提供し、体操なども工夫して行っているが、それでも便秘時には、往診医に相談し処方されている、薬を服用してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、行事・体調により曜日変更がある。入浴前は必ずバイタルチェックをして、体調を確認し、希望等考慮して入浴の順番を決めている。ご利用者のペースに合わせ、スタッフと会話をしながら、入浴してもらっている。	・入浴日は週3回と決めているが、それ以外に希望があれば、別の階の浴室を利用し対応できる体制にある。 ・入浴は毎回、湯船からお湯をオーバーフローさせ、ゆっくりと気持ちよく楽しんでもらっている。	・職員に対する腰痛予防の観点から、浴室にバスボードなどの器具を設置して、入浴支援に配慮することが考えられます。

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や身体状況により居室で休んでもらっている 又食後リビングで傾眠がちな場合も居室で休んでもらう様にしている。居室の様子観察は気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回セットする時や処方時に確認している。1週間分の薬を個人の薬入れ（状差し様のもので曜日・朝・昼・夕等に分けている）に入れ、そこから夜勤者が、取り出しチェックして次の日の配薬容器に入れる等誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	102歳の方のお盆拭きを始めとして、各々できる事をお手伝い頂き、役割を持つ喜びを持って頂ける様にしている。 お花見・紅葉狩り・公園へのピクニック・外食等全員で外出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下等により希望通りとはいかないが、こまめに戸外に出る様にしている。	・年齢と共にADLが低下しているが、こまめな対応を心掛けている。 ・大岡川の花見や三景園の紅葉狩りにドライブした。今後、近隣の食堂で昼食するなど外出する機会を増やす予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人は殆どいないが、御家族の了承の元、ご本人が安心していられる様に、現金を手元に持っている人はいる スタッフの日常品の買い物時一緒に外出し買い物を楽しんでいる方もいる。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けてあげたいが、ご家族の状況にもよる。ご家族の了承している時はスタッフが始めに出て、ご利用者に代わる様になっている。又ご家族からの電話や手紙は、喜ばれることが多いので協力して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入り口や壁面には季節感のある物を掲示し、トイレ等の表示をしている。室内はその日の外気温に合わせて調節する様にしている。	・食堂兼リビングはオープンキッチンと隣接し、利用者がカウンター越しに調理を見守り、家庭的な雰囲気が伺える。 ・壁には季節感のある飾りつけが施され、明るい雰囲気がかもし出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にはTVや仏壇等を設置するなど、居心地の良い場所になっており、リビングにも自席・マッサージチェアやソファが有りゆったり、くつろいで過ごすことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂き、本人・家族と相談し配置している。自身で作った作品や家族の写真を飾り、本人が落ち着けるように工夫している。	・利用者は、仏壇、テーブル、テレビなどの使い慣れた日用品を持ち込んでいる。 ・居室の壁には折り紙、絵など本人の作品を飾って個性的な空間を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体を動かし、掃除の手伝い・天気図の記入等できる事をしてもらい、時には台所に立ってもらう事もある。各居室に表札と顔写真入りの名前を掲示市、トイレにも表示をしている。又安全の為に足元に物を置かない様にしている。		

ライフハウス日ノ出

事業所名	ライフハウス日ノ出
ユニット名	4F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は各階玄関フローと事務室に掲示し、全員で共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入し、町内会主催の行事に参加している。 ・中学生の職業体験学習を受け入れ、利用者と交流している。 ・近くの保育園の園児達が来設したりしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居者への生活支援で手一杯であり、地域への啓発活動はできていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・おおよそ3ヶ月に1回程度開催し、意見・アドバイスをもらいサービスの向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・区の健康福祉課に介護度の高い利用者の支援内容等について相談・アドバイスを受けている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の無いケアを目指し常に話し合い、拘束をしない方法での安全、安心が確保出来る様に見守りの強化に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入浴時には全身観察を行い身体的虐待がないか注意し、職員会議・カンファレンス等では心理的虐待がない様に職員同士気をつけていくようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・制度に関しては、利用者・ご家族に説明し必要の有る方には管理者と相談しながら活用できる様に支援しているが、全職員が学ぶ機会を設けられていないのが実情である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・見学やパンフレット請求時などに説明し、入居契約時にもきちんと説明を行い理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付様式が整備されており、意見・要望が寄せられた場合には、職員会議等で話し合い解決に向け努力している。 ・契約書に第三者の公的窓口を明記している。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議を利用して意見交換する機会がある。 ・サンライズ会議を月に1回実施しており、現状報告や意見を聞いてもらえる機会が有り、サービス向上に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に1回の新年会を法人主催で開催したり、夏祭りは法人本部や法人内の各施設の役職者が手伝いに行ったり、来たりして各施設との交流を図っている ・介護職員処遇改善手当を付けてやりがい・向上心を持てる様にしている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ヘルパー2級資格取得支援制度を利用し、資格取得を奨励している。 ・研修・講習を受けられる様勤務変更したり、スキルアップの為の講習・研修の資料配布・掲示をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・横浜市グループホーム連絡協議会に加入し、交換研修等を行っている。 ・講習・研修に行く際、時間外手当や交通費を付けている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前にアセスメントを実施して、直接ご本人に面話し相互間の理解に努めている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・電話での問い合わせや、施設見学の段階から、相談しやすい雰囲気作りに努め、相談を受ける際にはご家族の意見・要望等をよく傾聴・受容し、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者の日常生活を理解し、本人にとってより良いサービス利用になるよう対応している。 ・対応が難しいケースの場合、介護技術や設備等説明した上で、他のサービス利用の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は利用者との良好な関係を築く為、一緒に生活する家族と同じ目線で声掛けしサービスを行うように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・来訪時には、日常の様子をお話し利用者と一緒に話したり、問題点には解決に向けて相談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会時間を決めずに馴染みの人がいつでも訪問出来るようにしている。 ・利用者が忘れないように馴染みの人や出身地の思い出話をしている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が一人一人をよく観察し個性を大切に、時には利用者同士の間に入りコミュニケーションを取り易い様な雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・特養に移った利用者の所に面会に行ったりしている。 ・退去後に他界された方の告別式に参列させて頂いたりしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・居室担当を決め、担当者を中心に希望・訴えを話し合い情報を共有し個別により良い援助できる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前のアセスメントで知り得た情報を共有して職員全員が理解する様に努め、事ある毎にご本人・ご家族から話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・身体の状態・気持ちの状態をよく観察し、1日2回の申し送りにて情報交換し、申し送りや個人記録等の記録にて現状の把握に努めている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・居室担当者を決め、担当者中心に月1回の会議で意見交換している。 ・ご家族へは必ず報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常の様子は日中は黒字・夜勤は青字・重要事項は赤字で色分けし個人記録に記入し、情報を共有している。 ・ヒヤリハット・事故報告書等を記入し、毎月の様子のまとめを活用して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の変化に気を配り、出来るだけ本人・家族の希望・要望に沿うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防署の方々に協力して頂き安全を確保している。 ・ボランティアとして、書道・車椅子ダンス・傾聴・朗読などを提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・2週間に1回、提携医療機関の往診がある。 ・その他に個人的なかかりつけの往診、家族希望の医療機関への受診をしている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・事業所内のデイサービスの看護師に、日常の健康管理に関する相談に乗ってもらい、必要時には医療処置をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・家族が中心になって行っている。 ・退院時は入院時の様子や注意点等を詳しく聞き、介護に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ADLの低下に伴い特養に移られたり、病院に長期入院により退去される方が多いので、取り組みの事実は無い。今後は重度化した事を想定し終末期のあり方を明確にしていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急対応のマニュアルを作成しワークルームに常備して有りいつでも見られる様にしている。 ・訓練としては行われていないが、緊急対応の度に様子報告や話し合いをし心構えを持つ様にしている ・非常持ち出しを準備している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。 ・災害用ビデオを見たりして災害に備えられるように意識している。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの性格を把握し本人にとってより良い言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者が希望を表しやすい雰囲気作り、能力に合わせた言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・業務の流れは一応作成し各職員対応しているが、利用者のペースや希望に添って起床時間・食事時間を調節している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自立の方は本人に任せ意思表示出来る方には希望を聞いているが、天気・季節を考慮し声掛けを行う事もある。 ・訪問美容を利用し、希望によりカットをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・誕生日には本人の好物を提供し、食事は職員と一緒にテーブルに付き会話を楽しんでいる。 ・ADL低下に伴い準備は出来ないが、下膳等出来る事は一緒に行っている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリー計算し栄養バランスに配慮し、食事・水分チェック表を記入して一人ひとりの状態を把握して声掛け介助で摂取量を満たすように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケア・就寝時には洗浄剤による義歯の洗浄を実施し、週1回の訪問歯科により口腔内のチェックをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表にて排泄時間を記録し、排泄パターンを把握して声掛け・誘導し自立をめざしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・起床時の牛乳・10時にヨーグルトを提供し、体操を行っている。 ・排泄チェック表を活用し便秘時には、往診医に相談処方されている、薬を服用してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴日は火。木・土基本的には決まっているが、行事・体調等で曜日変更がある 順番等は本人の希望を取り入れる様にしているが、入居者全員に偏り無い様にしている ・気持ちよく・楽しく入浴出来る様に配慮している。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・各居室が個別になっており、一人ひとりの体調・ペースに合わせて休憩したり眠ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋を個人別にファイル、いつでも確認出来る様にしている。変更があった場合には、スタッフ連絡帳に記入し全員が把握し個人別に薬袋を作り確認し誤薬の無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホワイトボードへの記載・掃除機かけ・食器拭き等出来ることを無理強いないで日課としたり、レクリエーション等の提供をして居心地の良い生活が出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ADLの低下等により希望通りとはいかないが家族希望による外出は自由に行っている。 ・お花見・紅葉狩り等季節に合わせ全員で外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は金銭管理が可能な利用者はいないので日常では持っていないが、行事の外出時には個人個人で財布を持ちスタッフ見守りのもと、支払いしている。		

ライフハウス日ノ出

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族に前持って了解を取りご本人の希望があれば、ご家族に電話をかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・常に掃除して清潔を心がけ、毎月の季節に合った装飾で季節感を楽しんで頂けるようにしている。 ・ベランダ・テーブルには花を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事の席は決まっているが、その他には自由に移動し思い思いにコミュニケーションをとって頂いたり、テレビの前にソファを置きリラックス出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を持ち込んで頂き、本人・家族と相談し配置している。 ・自身で作った作品や写真を飾り本人が落ち着けるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室には表札をつけ扉に顔写真入りの名前を貼りトイレには使用中の札をつけたりし迷わないようにし、各所に手摺りをつけ不安なく生活出来るようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ライフハウス日ノ出

作成日 平成 22 年 3 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常食や水の備蓄、又毛布等の防寒対策がなされていない。(法人として検討中であるが他の事業所もありなかなか実施できない)	非常食、水の備蓄、防寒対策をしていく。	災害はいつ来るか分からないので、当施設として少しずつ準備していきたい。まずは水と防寒対策から少しずつ始めていきます。	1年
2	45	職員に対する腰痛の予防対策が必要。	浴室内の環境整備。	法人と相談し、系列の他施設で私用していないバスボードを借用して、入浴時の職員の負担の軽減を図ります。	1か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。